

朝日小学生新聞の特別号

朝小 はじめてのしんぶん

SAPIX 小学部
SAPIX YOZEMI GROUP

ピグマキッズくらぶ

とくべつごう

朝日小学生新聞の特別号

〒104-8433 東京都中央区築地 5-3-2

「朝小はじめてのしんぶん」

電話 03-3545-5222(編集)

企画・制作 朝日学生新聞社広告部

「朝日小学生新聞」ご購入のお申し込み
お近くのASA(朝日新聞販売所)
www.asagaku.com

子どもページ

4面 「最強がた」ロケット

7面 ピグマの パズルに ちょうせん

親のページ

2-3面 桐朋小学校

5面 幼児とデジタル

親子で楽しむ新聞です

「子どもページ」は、小学1年生で習う漢字を基本に、
漢字表記をしています

みんなの いろんな

“きょうみ”や“こせい”が

たのしい 未来につながる!

みる よーくかんさつする きく 耳をすませる かぐ クンクン

さわる ふわふわ? ちくちく? つるつる? たべる おいしい!

からだのかんかくを フルにつかって いろんなことを けいけんしよう!



「すき」「おもしろそう」「やってみたい」というきもちや「なんだろう?」「どうして?」「どうなってるの?」

という「きょうみ」を大切に いろんなことを じぶんのあたまや からだをつかって けいけんしましょう。

いっぱいから 学ぶことも いっぱいあるので どんどんチャレンジ! そのつみかさねで じぶんの「なっこ」が
ゆっくり ふとく そだち ひろがっていきます。この大きな木のように しっかりした「なっこ」のある人になれば
いろんな人と たすけあいながら **すてきな未来を 切りひらいていくことができますよ!**



桐朋小学校 校長 中村 博 先生

Message from the Principal

学校法人 桐朋学園
桐朋小学校自分自身の人生の主人公に、
そして社会のつくり手となりゆく
ためのねっこを育てる5年生と1年生がパートナーとなって
一緒に活動する

東京都調布市にある桐朋小学校では、「子ども一人ひとりを原点に」という教育目標の下、「自治活動」「総合活動」「教科教育」の3領域をバランスよく取り入れたカリキュラムを展開し、社会の担い手としての「ねっこ」を育てています。幼稚園から大学までがそろった緑豊かな仙川キャンパスの中には、虫取りや木登り、石渡り、柿もぎなどができる「しぜんひろば」をはじめ、季節の野菜を育てる学級ごとの畑など、子どもたちの好奇心をくすぐる環境が充実。「子どもらしさ」や「その子らしさ」を十分に発揮できる、豊かな小学校生活の実現をめざしています。

異世代の姿に刺激を受ける
幼稚園から大学までが揃う環境

桐朋学園の前身は、山下汽船株式会社社長の社長である山下亀三郎氏の寄付金をもとに、1940年に設立された財団法人山水育英会です。1941年に山水高等女学校（現・桐朋女子中学校・高等学校）と山水中学校（現・桐朋中学校・高等学校）を開設しましたが、敗戦によって山水育英会は解散を余儀なくされます。そこで、東京文理科大学・東京高等師範学校（現・筑波大学）に一切を移管する形で、1947年に財団法人桐朋学園が誕生。その後、幼・小・中・高の一貫教育体制の実現をめざし、1955年に桐朋幼稚園と本校が設置されました。

学園の教育理念は、「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するヒューマニズムに立つ『人間教育』」です。ちなみに本校は、桐朋幼稚園、桐朋女子中学校・高等学校、桐朋学園芸術短期大学、桐朋学園大学音楽部門と同じ仙川キャンパスにあります。小学校校舎の裏手にある「しぜんひろば」には幼稚園児が遊びに

来ることが多く、文化祭や体育祭の準備に勤しむ中高生や、楽器や演劇の練習に励む大学生の姿を間近に感じ、交流する機会もあります。子どもたちは、異世代が集うキャンパスの中で多くの刺激を受けながら、自分のありたい姿について思いをめぐらせています。

「パートナー制度」が促す
異学年交流とそれぞれの成長

本校は男女共学ですが、卒業後は男子が国立市の桐朋中へ、女子が同キャンパス内の桐朋女子中へ多くの子が進学します。受験というシステムにとられず、貴重な小学生時代を伸び伸びと過ごせることが強みの一つです。

教育目標は「子ども一人ひとりを原点に」「自分自身の人生の主人公に、そして社会のつくり手となりゆくためのねっこを育てる」の二つ。その目標を実現するためには、学校が子どもたちにとって居心地のよい場所であってほしいと願っています。本校では、子どもたちが「自分分はかけがえのない存在だ」と実感できる環境を整え、個性の違

いを認めながら、地球市民の一員として成長していけるような教育活動を行っています。

その代表的な取り組みの一つが「パートナー制度」です。1年生と5年生がペアを組み、1年生が入学し、5年生が卒業するまでの約2年間、行事や教育活動のなかで密接に関わり合いながら、お互いに成長していきます。

また、2年生もひとつ上の先輩として、1年生に向けた紙芝居の読み聞かせや、肥後ナイフを使った鉛筆削りのレクチャーなどを行います。初めは不安でいっぱい1年生も、上級生が優しく接してくれることで、「自分は受け入れてもらえる存在なのだ」という安心感を抱き、桐朋小学校の一員としての自覚が徐々に芽生えていくのです。

「委員会活動や団活動」が
子どもたちの自治精神を育てる

本校では、「自治活動」「総合活動」「教科教育」の3領域をバランスよく取り入れたカリキュラムを展開しています。一つ目の「自治活動」では、「自分たちのコミュニティは自分た



クラスの仲間が楽しんだり、気持ちよく過ごせる環境を整えたり、学校全体で考え合って取り組む自治活動



「みんなの声の木」の葉っぱ一枚一枚が各クラスの願いや考えからなり、実現に向けて話し合われる

校長
中村 博 先生

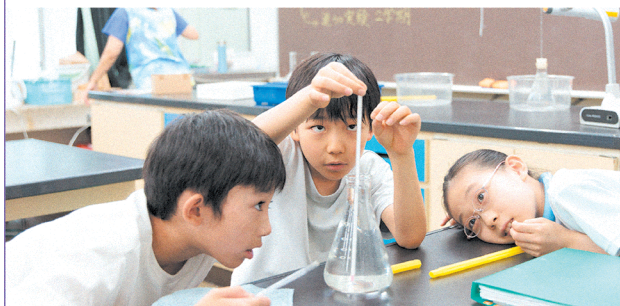
Message from the Principal 桐朋小学校



鬼ごっこをしたり、一輪車の練習をしたりする子どもたちで賑わうテラスや屋上。思い思いに過ごせる場所がある



しぜんひろば委員が枇杷を収穫。全校への分配方法にも知恵をしほ



理科の授業では「本物に触れて自分でやってみる。学ぶこと、追求していくことは楽しい!」と子どもたちが実感することを大切にしている



全学年週1時間ある図書的时间。自ら学ぶ力が、世界を変えていく



学年の発達段階に合わせた自主編成の教材を用意し、じっくりと授業に取り組めるようにしている

School data

学校法人 桐朋学園 桐朋小学校
住所／東京都調布市若葉町1-41-1
TEL／03-3300-2111
<https://shogakko.toho.ac.jp/>

1955年開校。教育目標は「子ども一人ひとりを原点に」「自分自身の人生の主人公に、そして社会のつくり手となりゆくためのねっこを育てる」。1学年の定員は72名(桐朋幼稚園からの進学者約26名を含む)。1、2年生の間は24人学級の3クラス、3年生以降は36人学級の2クラス編成となる。卒業後は、男子は桐朋中学校、女子は桐朋女子中学校へと多くの子が進学。



ちでつくる」をモットーに、学校生活のさまざまなルールを子どもたちによる話し合いで決めています。

学年集会や発表会の場として利用される「プレイルーム」の入り口には、各クラスからの意見や要望が書かれたカードを「葉っぱ」に見立てた「みんなの声の木」があります。その内容は、「全学年で鬼ごっこがしたい」という提案から、「上級生が遊び場を占拠するので遊びづらい」という不満までさまざま。ここに掲出された意見は、「代表」「保健」「体育」「放送」「しぜんひろば」「プレイルーム」「遊び企画」「図書」の8つの委員会に仕分けられ、実現や改善に向けた話し合いが行われます。

過去に実現した例の一つが、「しぜんひろばに木登りができる木を増やしてほしい」という要望です。しぜんひろば委員会が中心となり、全校で話し合っ

て、2019年度からイチヨウの木を育てることになりました。とはいえ、まだ幼木ですから、在校生が卒業するまでに木

野菜の収穫や蚕の飼育を通して教科横断的な学びを体験

登りできるほどの高さには育たないでしょう。それでも「これから入学してくる後輩のために」と成長を楽しみにしてくれている姿を誇らしく思います。

そのほか、子どもたちの自治によって成り立っている取り組みとして「団活動」があります。これは週1回、高学年の児童が好きなことを楽しむ時間です。バレーボールやサッカー、バスケットボールなどの運動系から、イラストやクラフト、音楽、鉱物・化学生物などの文化系まで、その内容は多岐にわたります。団は児童の発案によって自由

に結成できますが、成立条件は5・6年生が一緒に活動できること、そして両学年の児童が団に所属していることです。そのため、子どもたちは自分が実現したい活動をアピールし、同志を募らなくてはなりません。自分の「やりたい」という熱意はもちろん大事ですが、その思いに共鳴してもらうにはどうしたらよいかを考えることで、自然と共働の力が育まれていきます。

野菜の収穫や蚕の飼育を通して教科横断的な学びを体験し、60年以上にわたり桐朋教育の柱の一つとなっているのが、子どもたちの興味・関心を尊重した「総合活動」です。

校内には学級ごとの畑があり、夏にはキュウリ、秋にはサツマイモ、冬には大根など、子どもたちは季節の野菜を栽培・収穫します。新鮮な野菜のおいしさを味わうことはもちろん、たくあんや干し柿づくりなどを通して、昔ながらの保存の知恵を学ぶ体験もしています。

やがて5年生になると、米作りにチャレンジ。専門家に学び、土おこしから田植え、収穫、脱穀、精米までを行います。苦労して育てても、実際に収穫できる米はほんのわずか。その体験を通して、農家の方の苦労を知り、食へのありがたみを感じるようになります。

3年生の蚕の飼育のことも。桑の葉を与え、大きく育つ過程を間近に観察するうちに、だんだんと愛着が湧いてくるのでしよう。虫を苦手としていた子どもたちも、気づけば愛おしそうに蚕をなでています。最終的には繭を茹で、糸を取り出すところまで体験しますが、「こんなに尊い命を人間の都合で奪っていいものか」と子ども

本の世界との幸せな出会い 通知表のない6年間

「教科教育」では、美術・音楽・体育・理科・図書を専科教員が担当し、その他の教科は担任が指導します。高学年ではゆるやかな専科担任制を採用しています。

そのほか、力を入れているのが2020年度よりはじめた「地球市民の時間」です。現代社会が直面する課題について、さまざまな角度からアプローチする授業で、これを構成しているのが「多文化共生」「国際理解」「地球環境」、そして「外国語教育」です。3年生の後期以降は週1時間の英語の授業を設定し、クラスを2分割した少人数で指導を行っているほか、高学年では特設授業でネイティブ講師を招き、英語でのコミュニケーションをします。ここで味わってほしいのは「自分の思いが伝わった」「通じ合える」という経験です。その喜

びが、これから子どもたちが多文化共生や国際理解を深めていくための第一歩となります。

すべての学年に週1時間の図書の時間を設けているのも特色の一つ。物語の世界が子どもの中に豊かに息づくこと、「物語を楽しむ力」が伝わり、響き合うことを願って、読み聞かせやストーリーテリングなどもします。休み時間になると、しぜんひろばで捕まえた生き物を片手に図書室に飛び込んでくることもしばしば。生き物の生態や飼育のこつなど、疑問があればすぐに本を開くという習慣が身についているようです。